

于彼朝陽
梧桐生矣
于彼高岡
鳳凰鳴矣

校名出典

本校の校名である「鳳鳴」の由来

明治十八年初代塾長市瀬禎太郎より校祖青山忠誠公(初代塾主)への意見書に鳳鳴義塾命名の経過が述べられている。それによれば、市瀬先生は塾考の末、詩経から「鳳凰鳴矣于彼高岡梧桐生矣于彼朝陽」の句を選び出された。鳳凰は中国の瑞祥の靈鳥として想像されたものであり、論語には「鳳兮鳳兮」或いは「鳳鳥不至」と何れも(鳳凰の存在は)天下泰平の意味に用いられる。又鳳凰は鳳皇に通じ、古来天子のさんよ ほうれん 參與を鳳輦とも呼び、**鳳凰が鳴くというのは傑出した偉人の出現の意に用いられる**。建学の教育理想にふさわしい適切な命名であった。

(九十年のあゆみより抜粋)

『詩経』大雅・卷阿より

読み方 鳳凰 彼の高岡に鳴く 梧桐 彼の朝陽に生ず

意味 鳳凰はあの高岡の地で鳴き、
(鳳凰が羽を休めるとい)梧桐の木は
彼の朝陽の地に生じる

教育方針

明治 9(1876)年、私立篠山中年学舎(のち、鳳鳴義塾と改称)の創設以来の建学精神は「いつもつてこれをつらぬく一以貫之」です。昭和 26(1951)年、「学校の教育方針と生徒の生活目標との融合一体を示すもの」として制定された“生徒信条”が、今日までの校風と本校の歩みを導いてきました。

建学精神

生徒信条



一生涯を通じて真心や思いやりの心を最も大切な道として生きるという孔子の言葉。本校創設者の青山忠誠はこれをモットーとしました。

勉強第一
正義の実行
身体の強健

教育目標

1. 地域社会の発展に寄与する人間の育成
2. 自らを鍛錬し自己実現を達成する自立した人間の育成
3. 自立のこころを身に付け国家および国際社会に貢献できる人間の育成

